

入学・進級から一か月がすぎました。新しい環境を楽しんでいますか？この季節は、新生活に慣れるとともに、心や体に少しずつ疲れが蓄積される時期でもあります。そんな自分の変化を見つめてみたり、一息ついたりするために、図書館でゆっくり読書してみてもいいでしょう。晴れた日に図書館の窓を開けると、薫る風が心地よく心も体もリフレッシュできると思います。

新着お薦め本

新井淳一校長先生のお薦め本



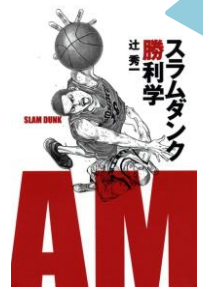
『サッカーの神様をさがして』はらだみつき著
高校に入ったらサッカー部に入ろう。しかし、入学した新設校にはサッカー部はなかった。仲間と同好会を立ち上げたが部員集めや練習場所確保など前途は多難。そんなときに足に障がいを抱える生徒が監督に名乗りを上げる。主人公の青春時代の回想と現在が交錯しながら物語は進む。部への昇格、初の公式戦、そしてわだかまりを残してしまった友との別れ。張られた伏線が高校時代から現在に繋がり、納得したりほっとしたり、ゾーンと来たり。読み終えた後に胸をぐっとつかまれるような気持ちになります。

高橋秀幸教頭先生のお薦め本



『その本は』又吉直樹 ヨシタケシンスケ著
本の好きな王様がいました。王様はもう年寄りですが、目がほとんど見えません。王様は二人の男を城に呼び、「お前たち、世界中をまわって『めずらしい本』について知っている者を探し出し、その者から、その本についての話を聞いてきてくれ。そしてその本の話をしに教えてほしいのだ」旅に出たふたりの男は、たくさんの本の話を持ち帰り、王様のために夜ごと語り出した。

木下真澄先生のお薦め本



『スラムダンク勝利学』辻秀一著
映画THE FIRST SLAM DUNKを鑑賞した人も多いはず。バスケットをやっていない人たちからも大人気のバスケット漫画から学べる事を追及した一冊。著者が言う、勝つということには、【自分らしく、本書をはじめ、いかなるときにも実力を発揮し、そして自分にふさわしい結果を得ること】であるとメッセージが込められています。何かにチャレンジする時、是非読んでほしい作品です。必ず、パワーチャージできるはずですよ。

近藤恭晃先生のお薦め本



『よのなかルールブック』高濱正伸著
これから厳しい社会に出ていく高校生のみんなに伝えたいことが、イラストを交えてわかりやすくまとめられています。
・いいことを言うよりも、よい行動をとる。
・すぐに「きらい」「苦手」と言って自分の世界をせばめない。
・見た目ではなく中身で勝負する人になる。
・話を聞くときは、ことばではなく相手の心にこそ耳をすませる。
・「一生懸命」をバカにする人にはふりまわされない。
・まちがっていてもいいから、自分なりの答えを出す。
・起きる時間を決めて・守る。
・「後悔」はしない。でも「反省」はしっかりする。
・どうしてもツライときは、逃げる。

大友佑紀先生のお薦め本



『脳を活かす勉強法』茂木健一郎著
皆さんはどのように勉強していますか？朝から晩まで机に向かい問題集を解いていますか？それとも、夜中に音楽を聴きながら勉強をしますか？あなたは、本当に今の勉強法が自身に最適なのか心配になりませんか？この本は、自身の勉強法を見直すきっかけになる「かも」かもしれません。脳を最大限に活用するには、自己への理解を深め、自身へのくごほうび>を用意することで、脳は効率的に覚えたり、集中力を増したりします。脳の構造は複雑ですが、案外、単純な性格かもしれませんよ。

高校生直木賞

読む+語る+選ぶ+深まる
http://koukouseinaoki.com/

高校生直木賞とは

全国の高校生たちが集まって議論を戦わせ、直近1年間の直木賞の候補作から「今年の1作」を選ぶ試みです。フランスには、読書教育の一環として25年以上にわたって行われている「高校生ゴンクール賞」（毎年2000人を超えるフランスの高校生たちが参加し、権威ある仏ゴンクール賞の候補作の中から自分たちなりの1作を選ぶ）があります。その日本版を目指して2014年5月に第1回が開催され、『巨鯨の海』（伊東潤）が受賞。第11回となる今回は、全国41校、約320名の生徒が選考に参加しています。

高校生直木賞決定！

『ラウリ・クースクを探して』

宮内悠介著



1977年、エストニアに生まれたラウリ・クースク。ラウリはソ連時代のエストニアの田舎に生まれ、黎明期のコンピュータ・プログラミングに取りつかれた人物だ。その才能を見込まれ、都会であるタルトゥのロシア系中学校に進学する。そこでライバルであり、かつ親友となるロシア人のイヴァーノフ・クルグロフと出会う。二人は切磋琢磨し合いながらアイデアを生み出し、低機能の8ビット機に高度なプログラミングをしていく。しかし、そんな二人をソ連の崩壊が引き裂く。「ソビエト崩壊」に巻き込まれた人は多い。それ以外の過去の戦争・紛争やテクノロジーの発明、政治家の動向によって人生が変わったという人まで含めたら星の数ほどになるだろう。でも記録（データ）には残せる。これが本作品であり、データ大使館を設置するエストニアを舞台にした意味を考えながら読んでほしい作品である。

話題のメディアMIX作品



『ハビネス』嶽本野ばら著
彼女の履いていた靴下の話がきっかけで付き合い始めた高校2年の僕たち。平凡な毎日を送っていたある日、彼女は唐突に僕に言った。「私ね、後、一週間で死んじゃうの」運命を受け入れていた彼女は、残されたわずかな時間を自分らしく生きたいと願う。僕は心が追いつけないまま、彼女の望みをかなえることに奔走した。
主演 窪塚愛流 柿田彩珠・監督 篠原哲雄で2024年5月公開 映画作品



『トラペジウム』高山一実著
高校1年生の東ゆうは「絶対にアイドルになる」ため、己に4箇条を課して高校生活を送っていた。「SNSはやらない」「彼は作らない」「学校では目立たない」「東西南北の美少女を仲間にする」。努力の末、ついに東西南北の「輝く星たち」を仲間にした東が、高校生活をかけて追いかけた夢の結末とは？
2024年5月公開 アニメ映画作品



『碁盤切り』加藤正人著
娘の絹とふたり、江戸の貧乏長屋で暮らす柳田格之進。彼は、身に覚えのない罪をきせられた上に妻も喪い、故郷の彦根藩を追われた身だった。しかし、かねてから嗜む碁にはその実直な人柄が表れ、江戸で多くの知己を得る。ある日、旧知の藩士により、彦根藩での悲劇の真相を知らされた格之進と絹は、復讐を決意する。
主演 草野剛・監督 加藤正人 2024年5月公開 映画作品



『95』早見和真著
2015年の年末、秋久のもとに女子高生から連絡が届く。卒業制作のテーマとして「1995年」について調べているという。自分の人生を変えたその年、地下鉄サリン事件が起きた。平凡な高校生だった秋久は、世界が劇的に変わるのを実感していた。
主演 高橋海人 2024年4月～ ドラマ放映

気持ちを切り替えるときのお薦め本特集

『人生がラクになる心の「立ち直り」術』
斎藤茂太著



自分を許す「いいかげん」さが、幸せへの近道になる。「こたわる」人は融通がきかず、ウジウジ悩み、すぐカッとする。平凡でも楽しい人生を送りたいなら「いいかげん」が大切。もっと笑って心をほぐそう。がんばり過ぎのあなた！ぜひ読んでみてください。

『他助論』
清水克衛著



人に喜んでもらうことで成長していく生き方。100万人以上に本を紹介してきた「本のソムリエ」だからこそ見えてくる、みんなで実践できたらいいと思うこと。これからは「自助」の精神に加え、「他助」の精神が問われる時代なのかな。《自助論》から《他助論》へと移り変わってきたのだとを感じる一冊です。

『鏡の法則』
野口嘉則著



読んだ人の9割が涙した！と、インターネットで爆発的にひろがっている、愛と感動の真実のストーリー。主人公は、息子のいじめで悩む主婦・栄子です。彼女は、不思議なコンサルタント矢口氏から「鏡の法則」というゴールデンルールを教わって実践します。そして幸せな人生を実現するための「最も重要な秘訣」を手に入れます。

『つい悩んでしまう』がなくなるコツ』
石原加受子著



「カチンときた一言が何日も忘れられない」「失敗を何度も思い返してしまう」「つい悩んでしまう」人が、最近増えています。ムリしない、ガマンしない、周りを気にしすぎない！人間関係も人生の選択もうまくいく一番シンプルな方法。悩みスパイラルから抜け出す！「自分中心」心理学。

選挙権について一冊・・・

静岡県知事の川勝平太氏が辞職したことにより、5月26日に静岡県知事選挙が行われます。3年生の皆さんの中には、すでに選挙権を得ている人もいますので、政治を自分事として考える機会になるように投票について考えてみてください。図書館には政治選挙に関する本がありますので読んでみるのはいかがでしょうか。



『中高生からの選挙入門』
谷 隆一著

選挙の種類、意義から、投票のやり方、投票先を決める基準や、ポスター、新聞、選挙公報などの読み解き方、その基礎となる政治の現状と課題などがわかりやすく説明されています。データや用語解説のほか、若者の座談会、ルポなどもあり選挙に行こうと思える一冊です。

第一回 図書館イベント報告

群ぐんどく読 サッカー部の3年生の皆さん

今年度の図書委員は、サッカー部員の皆さんが大勢います。部活が忙しい中でも、当番や企画に率先して参加しています。今回の図書館イベントの企画には、3年生の部員の皆さんで参加してくれました。総勢16名で、萩原朔太郎の『竹』を伸び伸びと群読で披露してくれました。



練習は2回だけでし、当日欠席者がいたりしましたが、楽しんで元気に群読ができました。主張が強い3年生ですが、なぜかまとまり、同じ方向を目指す最高のメンバーです。図書館イベントの群読は歴代のサッカー部が伝統的に取り組んできたそうです。『竹』という作品の勢いある言葉の響きや力強さ・リズム感は、浜松湖北高校のサッカー部が目指すプレーと重なる印象でした。急遽、太田先生も加わってくださり、とても良い経験ができました。
主将 32HR 土井琉生



群読とは？

- ・複数の読み手による朗読。
- ・単独・斉唱を組み合わせることで迫力や芸術性を生む。
- ・読み手一人ひとりが、詩への想いを込めることで言葉の奥行きや重みが増す。

萩原朔太郎 (1886-1942) 群馬県出身

詩人。北原白秋門下の新進として作詩活動を始め、室生犀星の詩に感動して親交を結んだ。1916年犀星と『感情』を創刊、詩的主体の真実としての感情を重んじる口語自由詩を制作し、恩地孝四郎、山村暮鳥らも加えて感情詩派を形成した。生涯を通じて深い孤独や絶望、無力感を抱えながらも、大正期、口語による新しい詩の世界を開拓し、「日本近代詩の父」と呼ばれる。